



# 地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) [isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp](mailto:isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp)

## 募います 5 事業部会員 3 年目、パワーアップへ

地域再生協議会は設立から 3 年目を迎えるのを機に、全 5 部会の部会員を募集する。昨年度から今の部会構成になり、下記のような事業計画を組んでいる。30 年度はどの部会も完成形に近い事業推進体制を築く狙いから部会員を強化することにした。

現在、どの部会も部会長を中心に月 1 回程度をめぐりに集まり、必要に応じ町担当課長らが加わって議論を行っている。30 年度も 400 万円の事業予算が決まっており、19 日 (木) の本部会議で事業、予算を決定する。各部会への参加希望、事業内容の問合せは再生協議会へ電話、メールでお願いします。

部会名	30 年度事業
学校連携①友情の山	<ul style="list-style-type: none"> <li>山百合、山野草の保全・育成</li> <li>山百合の一般公開、山野草観察会</li> <li>育成環境の改善</li> </ul>
同②交流拠点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一色小こうりゅう塾」の拡充</li> <li>コムスクール事業へ積極参画</li> <li>プログラミング講座の検討</li> <li>駐車場確保の検討</li> </ul>
文化イベント振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>邦楽演奏会の開催 (5/28)</li> <li>やまゆり里山音楽祭の開催 (11/4)</li> <li>やまゆり合唱団合唱団百人体制</li> <li>新たな文化イベントの検討</li> </ul>
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉協議会活動の定着化</li> <li>生活支援、介護予防についての課題整理と解決策検討</li> </ul>
古民家活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとの家の運営管理</li> <li>〃 利用拡大イベントの開催</li> <li>雛の吊るし飾り展開催</li> </ul>
公園散策路①魅力ある公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>長畑公園の整備</li> <li>住民参画型維持管理の検討</li> <li>公園拠点の新規イベント検討</li> </ul>
②里山散策路	<ul style="list-style-type: none"> <li>全 6 ルートの道標・案内板の設置</li> <li>ウォークマップの完成</li> <li>健康ウォークツアーの実施</li> <li>ウォーキング愛好団体との連携</li> </ul>

### 「学校でつながる 地域づくり」

#### ——こうりゅう塾スタート

3 月末、第 1 回一色小こうりゅう塾が開かれ、35 人が参加した。テーマは、「コミュニティースクール (CS) 何が、どうなる」。



講演する古正校長

講師の古正一色小校長は「地域ともにある学校づくり、学校でつながる地域づくりの両

(裏面に続く)

方を目指したい。地域行事に出る子供たちはお客さんではなく、主役として扱って欲しい」と語った。

府川教育長は、CSの狙いは「地域の力で地域の子供を育てることにある」とし、「子供たちには地域人としての成長を期待したい」と述べた。

参加者からの発言も相次ぎ、約2時間の集りを終えた。

一色小こうりゅう塾は、住民の関心の高いテーマを取り上げ、識者と参加者が懇談、意見交換する場。今月23日（月）は三宅栄子にのみや子ども自然塾代表、5月は村田邦子町長、6月は猪股篤雄県住宅供給公社理事長、7月は原道子教育委員（元一色小校長）を招くことが内定している。

## 盛況!! 囲碁教室——各日とも20人前後

3月末に4日間にわたって開いた春休み囲碁教室が、盛況のうちに終わった。学校連携部会が地域こうりゅうルームを使って企画した初の試みで、予想以上の反響があった。



同教室は、教材、碁石の用意から指導者派遣まで百合が丘囲碁クラブの全面的な協力を得て実現した。

初日は保護者を含めた26人が出席、その後も15-20人が参加した。出席者は低学年から中学生まで、囲碁経験もまちまちだったために、はじめは指導する側が戸惑う場面があった。その後、ビギナーと経験者に分けた指導に切り替え、一気に軌道に乗った。

最終日に、今後の参加意向を聞いたところ、「機会があればまた来たい」とする声が多く上がった。指導に当たった直井同クラブ会長は、「たくさんの子供が興味を持っていることがわかった。今回の経験をもとに、これからどうするかクラブ員と相談したい」と語っている。

### テーブルを回って熱心に指導

## オリーブ発酵茶に課題——内野・東農大教授分析



古民家活用部会は3月末、ふるさとの家で内野昌孝東京農大教授による「オリーブ発酵茶の可能性」と題した講演会を行った。再生協議会と東農大のオリーブ発酵茶に関する共同研究をまとめたもので、製品化までには高効率の乳酸菌リサーチなどの課題があることがわかった。

東農大との共同研究は、古民家部会が湘南のオリーブ葉を使った発酵茶を製造し、内野教授のチームが製造指導や仕上がり品の成分分析などを行うもの。内野教授は一般入場者向け講演会に先立ち、製造に携わった古民家部会関係者に分析結果の詳細を説明した。

その要旨は、①製造品は味覚に影響する乳酸菌が望ましいとされる数量（10の6乗以上）に達していない②心筋梗塞や動脈硬化を抑えると見られているポリフェノールの含有量はばは適切な水準にある——というもの。このため、この先製品化へと進むには、「ポリフェノールと親和性の高い乳酸菌を探し出すことが重要だ」と結論付けている。再生協議会は東農大の分析結果を受け、今後の取り組みを協議することになる。

### 内野教授